

SL 写生大会

とき 5月5日(祝)
午前10時～午後3時
※雨天時は5月6日(日)

ところ SL 展示場

持ち物 絵の具、クレヨンなどの画材
※画用紙は配布します



ペーパークラフトのかぶとを作ろう

かぶとの飾りを選んで、子どもサイズのかぶとを作ろう！

とき 4月25日(土)～5月6日(日)

ところ エントランスホール

参加費 無料 ※申し込み不要



コーナー展示 4月11日(土)～7月5日(日)

ところ 特別展示室

内容 令和7年に名称変更を行った市指定文化財の襖絵・屏風とともに、新たに寄贈された五井松平家資料などを展示します。



竹島水族館 Aquarium ☎ 68-2059

館長の
むつみん



小林 龍二

メキシコに住む「ズーゴネティクス・テキーラ」といういかにもメキシコ的な名前の魚がいます。最近、飼育下で繁殖したものを研究者らが調査しながら故郷の川に返したらなんとか無事に定着した、という論文が発表されました。異国の魚ですが、実は私もバックヤードでこの魚をチマチマと世代をつないで維持しているのです、他人事ではないことでした。テキーラは不思議な魚で、体長6センチほどの小魚であるにも関わらず卵ではなく赤ちゃんでお母さんから生まれ、母胎内では人間と同じように臍の緒(のようなもの)を通じてお母さんから栄養をもらって育ちます。生まれる数は10匹前後と魚にしては少数で、1億個も卵を生むというマンボウなどとは大違いです。生まれた赤ちゃんには臍の緒がまだついており、時に逆子もいて難産の時もあり、出産に遭遇すると感動します。

自然下では環境破壊により絶滅したと言われていましたが、近年少数の生息群れが見つかり絶滅危惧種となっています。こりゃいかん、というわけでオランダの繁殖家から輸入して飼育し、殖えると何度も展示していました。そもそも生息環境の悪化により絶滅危機に瀕しているのです、そこへ殖えたものを放流しても生きていけないのですが、今回の試みではうまく定着したようで良かったです。川は海よりも1本1本が隔離された環境なのでそこにしか住まない種類の魚も多く、生息環境が悪化するとすぐに絶滅してしまいます。熱心な飼育愛好家や研究者によって自然外で維持された魚が今回は無事故郷の川に帰って良かったと思うと同時に、悲しさや飼育維持の大切さも感じました。



飼育中の
ズーゴネティクス・テキーラ